鎌倉の埋蔵文化財15

Buried Cultural Properties in Kamakura 15

平成22年度発掘調査の概要

平成24(2012)年3月

鎌倉市教育委員会

～ごあいさつ～

私たちが暮らす鎌倉市の地下には、かつて栄えた中世都市が埋蔵文化財として今でも多く残っています。これらの埋蔵文化財は残念ながら、さまざまな土木工事等によってそのままの姿で保存できないことが少なくありません。工事で失われてしまう埋蔵文化財と現在の市民生活との調和をはかるために、現状保存のかなわない遺跡については発掘調査を実施して可能な限り記録化を図り、その様子を私たちが理解できるようにすると同時に、将来へ伝え活用してゆくことは意味のあることです。

鎌倉市教育委員会では、発掘調査関係者のご協力を得ながら『鎌倉の埋蔵文化財』の発行をはじめ、鎌倉駅地下道ギャラリーでも埋蔵文化財パネル展示、遺跡調査・研究発表会などの事業を実施して発掘調査の成果を広くご紹介しています。

『鎌倉の埋蔵文化財15』では、平成22年度に発掘調査を実施した遺跡のなかから、代表的なものを選んでその概要をお知らせいたします。本誌をご覧になる皆様にも、往時を生きたひとびとの姿が彷彿としてくるのではないでしょうか。これからも、さまざまなかたちで発掘調査の成果をご紹介するよう努めてまいりたいと思います。今後とも、文化財保護に対するご理解とご協力をお願いいたします。

平成24(2012)年３月　鎌倉市教育委員会

～目　次～

１．　北条時房・顕時邸跡……………………………… 2
２．　下馬周辺遺跡……………………………………… 5
３．　長谷小路周辺遺跡………………………………… 9
４．　若宮大路周辺遺跡群………………………………11
　　英文要旨……………………………………………13

～例　言～

◎本書は平成22年度に市内で実施した主な遺跡の発掘調査の概要を掲載しました。
本書に掲載した遺跡の調査概要は鎌倉市教育委員会文化財課が執筆・編集しました。
◎本書の作成にあたり、次の方々のご協力をいただきました。深く感謝いたします。
植山英史（公益財団法人かながわ考古学財団）・滝澤晶子（株式会社博通）・宮田眞（同左）・山口正紀（鎌倉市教育委員会）（50音順・敬称略）

《表紙写真》下馬周辺遺跡（由比ヶ浜二丁目1075番外）　出土した中世鎧

◎表紙題字は松尾右翠氏に揮毫をお願いしました。

1．北条時房・顕時邸跡（雪ノ下一丁目267番２、４地点）

Hojo Tokifusa・Akitoki-Tei-Ato Site

捨てられていた仏像

調査地点は鶴岡八幡宮から南へ約100ｍ、若宮大路の西側に隣接しています。鎌倉時代の武将である北条時房、北条顕時の邸宅があったとされている場所で、周辺の発掘調査の事例では、若宮大路の側溝や武家屋敷の跡などが多く見つかっています。

調査によって、主に13世紀初頭から15世紀代の中世の生活面が発見されました。若宮大路側である調査区の東側では、13世紀～14世紀前半頃の若宮大路の側溝が見つかりました（写真１）。

13世紀後半頃の層からは、大型のまな板とまな箸(1)が土坑に捨てられた状態で見つかりました（写真２、３）。まな板は裏面２箇所に脚が付き、中央付近は欠損してしまっているものの、全体の形や大きさがわかるほど残りが良い状態でした。無数の刃物の痕が確認でき、まな板として使用されていたことがわかります（図１）。鎌倉市内の発掘調査では、容器の底板など他の製品をまな板として転用していたと考えられるものはよく出土していますが、まな板そのものが見つかることは少なく、たいへん珍しいものです。

さらに、13世紀前半の層からは、廃棄された木製品などと一緒に混じって、木製の仏像がほぼ完全な形で発見されました（写真４、５）。仏像は、像高16.5cmと片手で持てるほどのサイズで、容姿から不動明王像と考えられます。唇と髪は鮮やかに朱色の顔料で塗られており、良好な状態で土の中で保存されていたことがわかります。なぜ、ほかの物と一緒に捨てられてしまっていたかは不明ですが、まな板とともに貴重な資料の発見となりました。

写真１　発見された若宮大路側溝（溝幅は約３ｍ）
（Photo１）Gutters

写真２　まな板出土状況
(Photo 2) Cutting board

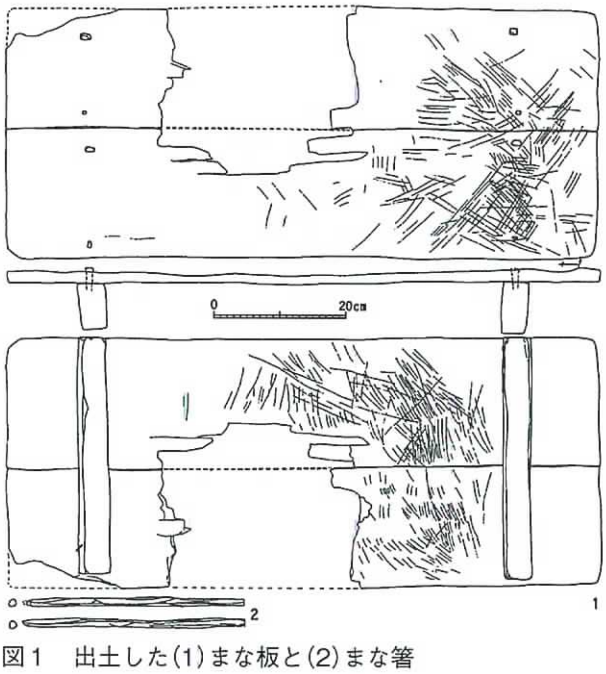

図１　出土した(1)まな板と(2)まな箸
実測図
(Fig. 1) (1) Cutting board (2) Chopsticks

写真３　出土したまな板
(Photo 3) Cutting Board

【註】⑴真魚箸。魚や鳥を料理するときに使う、長い木製の箸のことです。

写真４　仏像出土状況
（Photo４）Buddha

写真５　発見された仏像
（Photo５）Buddha

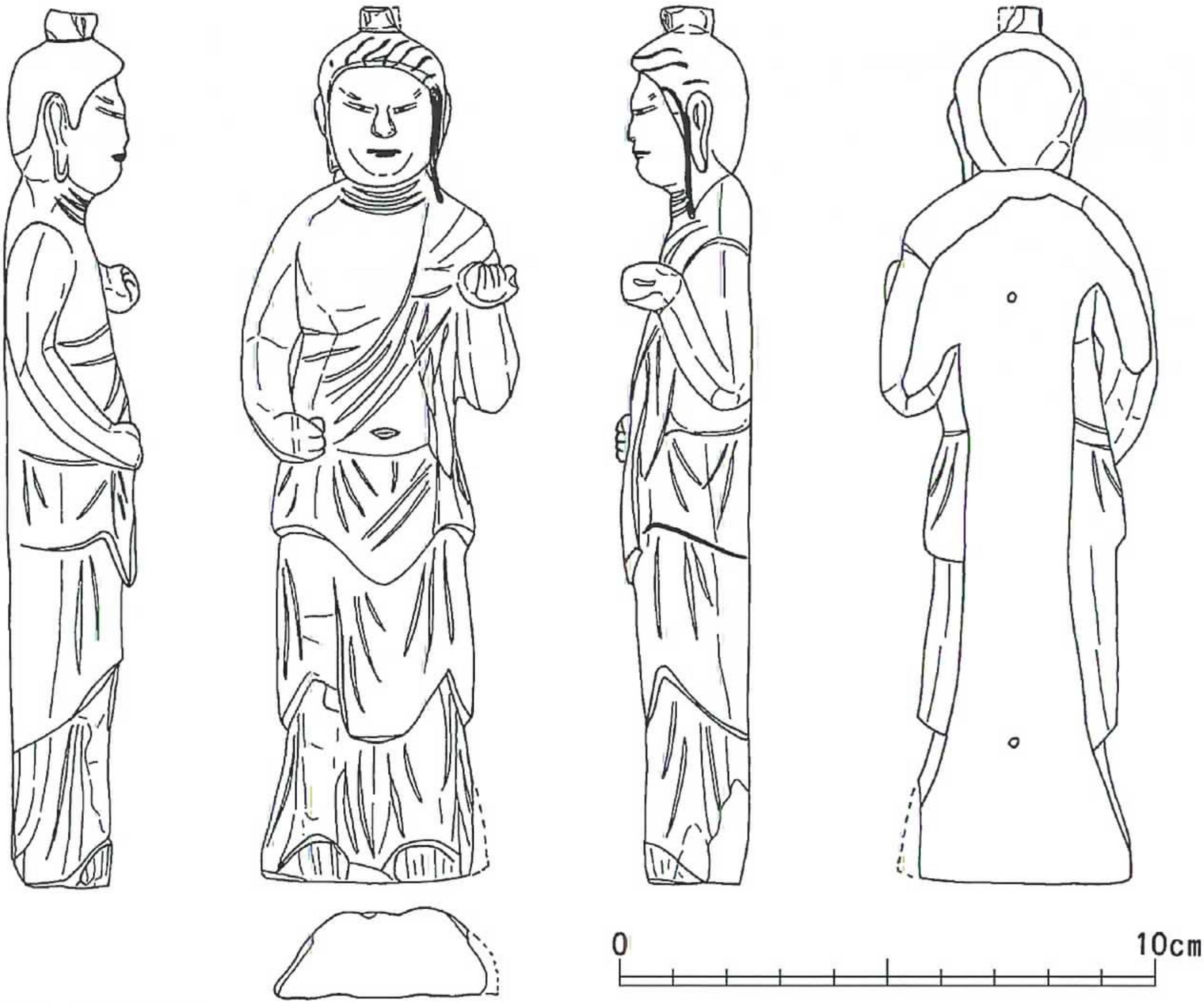

図２　仏像実測図
（Fig.２）Buddha

2．下馬周辺遺跡（由比ヶ浜二丁目1075番外）

Geba-Shuhen-Iseki Site

発見された中世の鎧

調査地点は、若宮大路に隣接し現在の一の鳥居より北へ約50ｍに位置します。周辺の地形は由比ガ浜の砂丘帯の北東側にあたり、遺跡は砂地の上に築かれています。鎌倉警察署建設工事に伴い、調査面積約1900㎡の大規模な発掘調査が行われました。

発掘調査によって、近世（18世紀以前）の遺構(2)と、中世（13世紀中期～15世紀代）の遺構が発見されました。近世の遺構は、現在の建物基礎などで壊されているところが多かったものの、若宮大路と並行する大きな溝や井戸の跡など様々な遺構が発見されました。中世の遺構は、主に方形に掘りこんで造った建物の跡（竪穴遺構）約70基、土坑約350基があり、溝、人骨や獣骨が出土する土坑なども確認されています。竪穴遺構は、礎石があるもの、穴を掘って柱を立てるもの、周りを囲むように切石を並べているもの（写真８）など、様々なタイプが見つかっています。このような建物跡の中心的な年代は13世紀中期～14世紀代と考えられ、この時期は土地利用が活発になったようです。15世紀代になると、人や動物を埋葬するような土地となり、生活の場としての空間ではなくなっていったと推測されています。

【註】(2)人間がのこした構築物や活動の痕跡のことをいいます。

写真６　北区南側全景（多くの建物跡）
（Photo６）The view of the remains

写真７　南区西側全景
（Photo７）The view of the remains

写真８　切石が並べられた建物跡
（Photo８）The site of the residence

写真９　第28号竪穴遺構
(Photo９) No.28 residence remains

写真10　発見された埋蔵銭
(Photo 10) Coins

写真11　発見された鎧
(Photo 11) Armor

調査区の南西端で部分的に見つかった第28号竪穴遺構(13世紀後半～14世紀初頭頃)では(写真９)、床面に掘られた穴から埋蔵銭(写真10)と中世の鎧(写真11)が発見されました。銭は、21差し分(１差し約100枚・計約2000枚)が紐で束ねられ、小さい穴に埋められている状態でした。

中世の鎧は、札(さね)と呼ばれる鉄製の板を紐で縦横に連結させて構成していたとされています。鎧は穴に埋められ、札と思われる鉄製の板がつながった形のまま、上からの土圧で外側に潰れた状態で発見されました。現在、寺社に奉納されて保管されている鎌倉時代の鎧は約60例存在するとされていますが、発掘調査によって土の中から中世の鎧の部位がまとまって発見されることはたいへん珍しく、国内ではまだ２例目とのことです。

なぜ穴を掘って銭と鎧を埋めていたのかはわかっていませんが、全国的にも出土例が少ない非常に貴重な資料です。現在、鎧については、付着している砂のクリーニング処理や金具部分のX線撮影など、詳細な分析を行なっています。また、どのような鎧であったのかについても専門家と検討していく予定です。

※表紙写真、写真６～11につきましては、公益財団法人かながわ考古学財団より写真のご提供及び掲載のご協力を得ました。

3．長谷小路周辺遺跡(由比ガ浜三丁目204番５地点)

Hase-Koji-Shuhen-Iseki Site

古代火葬墓の発見

調査地点は、下馬交差点から長谷観音方面に向かう由比ヶ浜通りの中間辺りで、道路の南側に位置します。鎌倉時代には、この遺跡の北側一帯を「甘縄」、南側一帯を「前浜」と呼んでいたようです。近隣の発掘調査事例では、中世の建物跡が多く見つかり、庶民や職人が暮らす空間であったと推定されています。また、中世より古い時代の住居や墓の跡も見つかっています。

今回の調査によって、13世紀中期～14世紀代頃の中世の建物跡が見つかりました。また、それより下へ掘り下げると、８世紀後半～９世紀代のものと思われる古代の住居跡や溝が見つかりました(写真12)。

８世紀後半～９世紀代と推定される面では、甕(かめ)の中に多量の貝と火葬骨を入れて逆さにし、外側に別の甕をかぶせて穴に埋めた火葬墓が見つかりました(写真13)。内側・外側の甕は２つとも底がない状態でした。この墓が発見された面より古い時期の面からも、同じく逆さにした甕の中に火葬骨のみを入れ、穴に埋めている火葬墓が発見されました(写真14)。火葬骨を入れた後に甕をかぶせたのか、甕を埋めてから底部を割って火葬骨を入れたのかはわかりませんが、後の時代に削られ壊されてしまった可能性が高いと思われます。

鎌倉の発掘調査において、このような古代の火葬墓の発見は非常に珍しいです。火葬をして骨蔵器に入れて丁寧に埋葬しているため、被葬者は身分の高い人物だった可能性があります。

写真12　Ⅱ区３面全景(古代の住居址、溝、火葬墓)

(Photo 12) The trace of the residence, Gutters, Cremation burial

4．若宮大路周辺遺跡群(小町一丁目329番１地点)

Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site

「小町大路」の発見か

調査地点は、JR横須賀線鎌倉駅の東南東約260ｍ、若宮大路の東約150ｍ、若宮大路の東側を並行して海岸へと向かう小町大路の西側に位置します。

南北へ直線的に伸びる若宮大路と違い、鎌倉時代の「小町大路」は地形に沿って整備されていたと考えられ、幕府と材木座や飯島などの商業地区とを結ぶ幹線道路であったとされています。現在の小町大路沿いで行われた発掘調査の事例では、道路の東西で木組み側溝が見つかっており、若宮大路と同様に「小町大路」の両側にも側溝が造られていたと考えられています。

今回の発掘調査では、中世の道路の跡が発見されました(写真15)。道路跡の西側では、13世紀末～14世紀初頭頃の木組みの側溝(写真16)、14世紀～15世紀頃の鎌倉石切石で護岸された側溝が見つかりました(写真17)。道路は、13世紀中期～15世紀頃まで、土丹[(3)]の貼り増しによる補修工事を行ない、長期にわたって繰り返し整備されていたことも確認されました。このことからも、今回発見された道路の跡が鎌倉時代に整備された「小町大路」であった可能性が高いのではないかと推測できます。

【註】(3)山裾から切り崩してきた泥岩の塊のことです。

写真15　道路遺構

(Photo 15) Remains

写真16　道路遺構と木組み側溝
(Photo 16) Gutters

写真17　側溝と切石護岸
(Photo 17) Gutters

Buried Cultural Properties in Kamakura 15

1. Hojo Tokifusa・Akitoki-Tei-Ato Site (Yukinosita 1-267-2 and 1-267-4)

The thrown away Buddha

The excavated point is located at west side of Wakamiya-Oji, 100m to the south from Tsurugaoka Hachimangu Shrine. This point is supposed to be the residence site of Hojo Tokifusa and Akitoki who were samurai in the Kamakura period. Other excavations around this point, some gutters of Wakamiya-Oji and some traces of the samurai residences were found. The remains of life from the beginning of 13th century to 15th century and gutters of Wakamiya-Oji were excavated (Photo 1). The rare relics were the large wooden cutting board and the Buddha (Photo 3 and Photo 5). Those things were in so good condition that the whole shape and size can be recognized. A lot of scars on the cutting board showed that it had been used very often (Fig.1). The Buddha can be held by one hand, and is thought to be the statue of Fudo Myoo (the God of Fire) from its appearance. The color of vermilion on the lips and hair remained vividly. It proves that the statue had been preserved well in the ground. The reason why the Buddha was thrown away with other things is unknown, but it turned out to be a rare and valuable discovery.

2. Geba-Shuhen-Iseki Site (Yuigahama 2-1075 and others)

The medieval armor

The excavated point is along Wakamiya-Oji, 50m to the north from Ichi-no-Torii (First Torii gate). The remains had been on sandy soil. The remains of the modern period (before 18th century) and the medieval period (the middle of 13th century ~ 15th century) were excavated. Some square traces of residences, holes, and others from the medieval period were found. The medieval armor and 21 bunches of string of about 100 coins were excavated in No. 28 residence remains (Photo 9 and 10). The medieval armor (Photo 11) had been crushed under ground pressure. The discovery of the medieval armor from excavation is extremely rare, and this is the second case in Japan. The armor will be analyzed in detail from now on.

3. Hase-Koji-Shuhen-Iseki Site (Yuigahama 3-204-5)

The cremation burials in ancient period

The excavated point is on the south of Yuigahama-Dori Street between Geba crossroad and Hase-Kannon temple. This area is supposed to be residential district because many sites of the medieval structures had been found around this point in past excavations. Also, other sites of residence and tomb in ancient period was had been found. Some remains from the middle of 13th

century to 14th century (the first and second layer) and the late 8th century to 9th century (the third layer) were found in this excavation (Photo 12). From the third layer, the cremation burial was excavated. A pot filled with cremated human skeleton and shells was buried (Photo 13). The same type of cremation burial which would be older than the other one was also discovered under the third layer (Photo 14). It is unusual in Kamakura such cremation buried sites of ancient period to be found. The interred seems to be high social ranking, because the body was buried respectfully by cremation and putting in the pot.

4. Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site (Komachi 1-329-1)

Komachi-Oji in Kamakura period

The excavated point is 260m to the east-southeast from Kamakura station, about 150m to the east from Wakamiya-Oji, on the west side of current Komachi-Oji which parallels Wakamiya-Oji and goes to the seacoast. Different from Wakamiya-Oji which extend straight to the north and south, "Komachi-Oji" in the Kamakura period is conjectured that was constructed along the natural features and was the main road from the shogunate to the business district such as Zaimokuza and Iijima. Judging from the neighboring excavations in the past, it is also conjectured that there were gutters on both sides of "Komachi-Oji" the same as Wakamiya-Oji in the Kamakura period. The medieval road traces were found in this excavation (Photo 15). Wooden frame gutters (Photo 16) and gutters made with hewn stone (Photo 17) were found on the west side of the road traces. The road had been repaired with mudstone from the middle of 13th century till 15th century, and maintained for a long time. Therefore the excavated road traces may be "Komachi-Oji" in the Kamakura period.

写真18　古代火葬墓　甕　長谷小路周辺遺跡出土
（由比ガ浜三丁目204番5地点）

(Photo 18) Pot

本書掲載の調査地点

(25,000分１地形図)

《掲載遺跡名称及び所在地一覧》

1. 北条時房・顕時邸跡（雪ノ下一丁目267番２、４地点）
2. 下馬周辺遺跡　　　（由比ヶ浜二丁目1075番外）
3. 長谷小路周辺遺跡　（由比ガ浜三丁目204番５地点）
4. 若宮大路周辺遺跡群（小町一丁目329番１地点）

鎌倉の埋蔵文化財 15

発行日　平成24(2012)年３月30日
編集・発行　鎌倉市教育委員会
〒248-8686　鎌倉市御成町18番10号
TEL：0467(23)3000　FAX：0467(23)8700
E-mail：bunkazai@city.kamakura.kanagawa.jp
印刷　中川印刷株式会社